

買物公園エリア未来ビジョンの「エリアの目指す将来像」について（案）

	エリアの目指す将来像	リード文
1	「文化」と「デザイン」と「音楽」の街=KAIMONO KOUEN！	「文化」=コアな芸術&カルチャーの魅力を世界へ（熊川哲也、玉置浩二、難波田龍起、砂澤ピツキ、あべ弘士） 「デザイン」=空間アートの魅力を世界へ（建築、家具、テーブルウェア、ポップアート、彫刻） 「音楽」=トレンドに流されない多様な音楽シーンを世界へ（ロック、ジャズ、ヒップホップ、ハウス、バラード、アニソン） 旭川市民、北海道民、道外、海外の方々へ「旭川の買物公園ってこんな街らしいよ！」と永続的に認知されやすいように、大きな共通のビジョンとして大テーマorコンセプトのようなものをま ずははっきり明確化させるべきかと思いました。
2	Re：買物公園 新たな空間	旭川（北北海道）における買物公園の中心性の回復、先進的なウォークアブル空間を時代に合わせて最適化することにより、安心できる空間は維持し、新しい空間を買物公園エリアで示すことで 人が繋がり、新たな買物公園が描かれ、「また」・「もっと」・「もう一度」が生まれるエリアになっていく relation 繋がり renovation 改修 redesign 再設計 reborn 再生 relife 安心（ほっとする）
3	好きが集まる買物公園	好きな所に（行きたい所に） 好きにだけ（いだけ） 好きなように（やりたいこと）を実現できる場所を目指す。 市民にも観光客にももっと買物公園を好きになってほしいという願いも込めて
4	多幸福感 ～小さな幸せを紡ぐ買物公園～	買物公園エリアを訪れた人々がこれまでの日常に+aした小さな幸せを感じることができ、また、各ゾーンの特色・魅力をさらに強めることで、その中で過ごす人々にもこれまでに増した幸せ を感じてもらう。 こうした小さな幸せを買物公園が紡ぎ、人と人、そしてエリア全体をつなげることで、 小さな幸せが集まった多幸福感あるエリアを目指す。
5	アジャイルな変化 フットワークの軽い買物公園	買物公園やそこで活動する人々がアジャイルな変化を続けることで、 「ふらっと立ち寄りたくなるようなエリア」・「自ら考えたことを簡単に実行に移すことができるエリア」・「新しいことにチャレンジするエリア」・「行動力があるエリア」を目指す。
6	市、事業者と地域住民が協力して作り上げていくブランド「買物公園」	社会実験を元に、地域住民の需要に寄り添い、未来ビジョンの意義やメリットを理解してもらい、利用者にとって、「非日常的で最高な1日」が提供できるエリアとしてのブランド力を高めて いく
7	トカイナカ ちょうどいい 今がいい	都会感と田舎感が両立し、居心地がよくあたたかみのある 滞在したい・訪れたい「ちょうどいい」エリアをつくりあげるとともに、 時代の流れやニーズに対応しながらアジャイルな変化を続けることで、 常に「今がいい」を感じられるエリアを目指す。
8	“中通り右・左街区”を1つのエリアとし、エリア特性「特質・他エリアとの差別化等」を打ち出し、 リピートしやすい・したくなる買物公園 例：5・6条中通り右（11街区）、左（12街区）のエリア特性「地元旭川の魅力が伝わる フードエリア・ファッションエリア」としてリピートしやすい・したくなる買物公園	買物公園の“中通り右・左街区”によって分かれる本通りに挟まれた比較的行き来しやすい（連携しやすい。）街区の魅力・特性・他エリアとの差別化等を打ち出すとともに、エリアを構成する 市民（事業者）の高い参画意識と人と人とのつながり等により魅力を増進し、発信することで、市民や観光客など多様な来街者のリピートしやすい・したくなるエリアを目指す。
9	自分らしく過ごせる買物公園	ひとりでぼーっと過ごしたい人、イベントをやりたい人、ちょっとおしゃれをして非日常を味わいたい人、誰かとつながりたい人、いろんな人が集まり、様々な活動が行われ、みんなが満たさ れる場所となることを目指します。
10	・個性、主張を大事にする場所 ・チャレンジできる場所 ・旭川カルチャーの発信地	地域住民・事業者の想いと外部参画者のチャレンジが融合することにより、買物公園ならではの「個性」、「主張」、「らしさ」が生まれ、市民をはじめ多くの人たちから愛される「旭川 カルチャー」の発信地を目指す。
11	時代を越えて 想いをつなぐ 歩みを続ける買物公園	時代を越えて～これまでの歴史を尊重しながらも、時代に応じた空間を目指す 想いをつなぐ～多くの人の買物公園への想いを、現在、未来にもつなげていく 歩みを続ける～みんなに愛される空間となるよう、アジャイルな変化を続けていく ※ウォークアブルもイメージ
12	一歩、進むたびに新しい景色に会える	一歩。また一歩。あれ、気づいたら夢中で1.5kmを楽しんでいた。 そんな毎日がこの場所の当たり前の風景になるように。みんなで一歩、人の想いで変わっていきける買物公園をつくる。
13	今日も明日もいきたい場所がある	今日は、なんでもない普通の日。イベントの日でもセールの日でもない。それでもいきたい場所があるんです。 もうここで過ごすことが暮らしの一部なんです。と言ってもらえる買物公園になる。
14	1.5km、ぜーんぶ わたしの庭。□	“わたしの”というのは誇らしさ。“わたしの”というのは愛。“わたしの”というのは安心。 誰もがそう感じられるながーい庭。買物公園。
15	一人ひとりが街の風景になる□	人がいないならわたしたちが歩けばいい。寂しいと思うなら座っておしゃべりをはじめたらいい。 何も無いからわたしたちがつくる。つかう買物公園からつくる買物公園に。
16	つながる。みつかる。好きになる。	買物公園を通して人と人がつながり、店と店がつながり、今まで気付かなかった新しい人や物事がみつかって、好きになる。
17	あなたの「毎日」がここにある。	「気付いたら今日も買物公園」そんな事を思えるような、皆の日常に溶け込めるような、居心地の良い買物公園を目指したい。
18	合いたい人がそこにいる 行きたいところがそこにある 何かをしても何もしなくても 日常も特別もある買物公園	店主や住人、市民、市外や道外(外国人も含む)の仕事や観光で訪れる方、全ての人が、目的があってもなくても“満たされる”空間や雰囲気、ルールを作り（逆に無くす、簡素化も…）、いつも いる人にも訪れる人にも“いつも求められる、いつも思い出されるエリア”を目指す。
19	「多様な自然・文化の舞台 買物公園／公園から日常を創造するまち」 「わたしたちの原っぱから」※青木淳さんの『原っぱと遊園地』から 「わたしたちの遊びがつながる公園とまち」※貞鍋博「遊び」	「道北・上川・旭川の多様な自然や生活文化が表現される舞台としての買物公園を、そして、その公園を中心に創造的な生活様式が生まれていくベースエリアを目指します。」 以下、他に良さげな言葉がないか案出したものです。 「原っぱ」…自由で包容力のある公共空間から、都市を有機的に発展させるさまざまな活動が展開していく。 「遊び」…自由な公園で生まれる遊びから、新しい日常をつくっていく。